

## (A) 平成20年度の事業報告

## ■横断型人材育成推進調査研究会

## 1. 本調査研究会の委員構成

平成19年度と20年度の委員構成は以下の通りである。

設置期間	2007年5月～2009年3月	
幹事学会	計測自動制御学会	
主査	佐野 昭	慶應義塾大学, 横幹連合理事, 計測自動制御学会
副主査	長田 洋	東京工業大学, 横幹連合理事, 品質管理学会
幹事	本多 敏	慶應義塾大学, 計測自動制御学会
委員	藤原 靖彦	日立製作所, 横幹技術協議会
委員	旭岡 勝義	社会インフラ研究センター, 研究・技術計画学会
委員	飯島 淳一	東京工業大学, 経営情報学会
委員	遠藤 薫	学習院大学, 日本社会情報学会
委員	川田 誠一	産業技術大学院大学, 計測自動制御学会
委員	坂井 佐千穂	住商情報システム, 電子情報通信学会
委員	榎木 哲夫	京都大学, 横幹連合理事, ヒューマンインタフェース学会
委員	鈴木 久敏	筑波大学, 横幹連合副会長
委員	高津 春雄	横河電機, 計測自動制御学会
委員	鳥海 光弘	東京大学, 日本地質学会
委員	中島 秀之	はこだて未来大学, 情報処理学会
委員	原 辰次	東京大学, 横幹連合理事, 計測自動制御学会
委員	林 利弘	日立製作所, 精密工学会
委員	古田 一雄	東京大学, 横幹連合理事

## 2. 本調査研究会の目的

横幹連合が目指すコトづくりを推進する人材育成は重要な課題であり、産業界においても融合型人材への期待が大きい。科学技術が人間、社会、環境などとの関わりをもつようになり、単一の専門分野では解決が困難になりつつある多くの課題の解決には、縦型学問分野の壁を越えた分野横断型基盤技術の推進が重要な役割をもち、横断型・融合型視点から課題に取り組む人材教育が大きな課題となっている。本調査研究会では、横断型科学技術者育成のための育成体制の確立、人材育成における産学連携協調の具体的方法、文理融合を促進するための方法や教育制度の変革、横断型科学技術者の社会における評価の仕組み、具体的な人材育成プログラムの調査研究、横断型・融合型人材育成のロードマップ作成などを目標とした調査研究を実施し、横断型人材育成を推進するための提言を産業界、官庁、大学に向けて行う。

## 3. 平成20年度の本調査研究会実施活動報告

## (a) 横断型人材育成推進調査研究会における検討事項

平成19年度に引き続き、平成20年度は下記の8回を開催し、討議を行った。

第8回調査研究会(2008年4月23日(水) 18:00-20:50)

筑波大学小林信一先生による講演「知の統合の海外動向」、およびはこだて未来大学 中島秀之先生による講演「情報工学教育における横断型人材育成」に対して質疑応答および討議を行った。さらに、情報通信分野、ソリューション分野の企業インタビュー結果についても検討を行い、今後の調査研究の進め方について議論した。

第9回調査研究会(2008年5月27日(水) 18:00-20:50)

電気メーカーの中央研究所および総合電気メーカーの企業インタビューの結果に関する報告とその内容に関連して人材育成についての自由討論を行った。また、人材育成に関する自動車メーカーの発表内容についての報告があり、質疑討論を行った。横断型人材の評価やコンピテンシーの評価をどのように行うべきかについての議論、さらに 12 月に開催予定の総合シンポジウムにおけるセッション企画とパネル討論の基本方針について検討した。

第10回調査研究会(2008年7月2日(水) 16:30-19:30)

第2回横幹連合総合シンポジウムにおける横断型人材育成に関するセッション企画の6件の講演内容と、その後のパネル討論の進め方について、詳細な議論を行った。特にパネル討論の内容に関連して、調査研究会として提言をどのような形でまとめるかについても詳細な議論を行った。次回に向けての検討課題を明らかにした。

第11回調査研究会(2008年8月1日(金) 18:00-21:00)

外資系電気メーカーのインタビュー結果の内容説明と関連する討論を行った。第2回横幹連合総合シンポジウムにおける企画セッションの前半部(講演)の講演者と内容についての最終案を検討し、各講演者に依頼することを決めた。さらに、後半部のパネル討論で中心となる提言内容に関して、これまでの企業インタビューのまとめを参考にして討論を行った。さらに諸外国の状況の調査結果や Converging Technology に関する資料を通して今後の進め方についても議論した。

第12回調査研究会(2008年9月11日(木) 17:00-21:00)

重工メーカーのインタビュー結果についての報告と討論を行った。報告書のまとめ方および12月末脱稿予定の横幹ミニ特集「横断型人材育成」の内容について議論を行った。特に、横断型人材とは何か?なぜ必要なのか?について、これまでのインタビュー結果や調査結果を通して議論をし、さらに明確にしていくことになった。大学教育に関する調査研究を行うことになった。

第13回調査研究会(2008年10月20日(月) 18:30-21:00)

横幹ミニ特集「横断型人材育成」の構成の基本となる項目に関して、詳細な議論を行った。また調査研究会としての提言項目について議論を行った。諸外国での横断型人材育成の状況調査も行うことになった。その結果、具体的な目次構成案、タイトル案、各概要、担当責任者案の基本方針を決定した。

第14回調査研究会(2008年11月21日(金) 19:00-20:45)

12月5日の第2回横幹連合総合シンポジウムでの企画セッション後半部のパネル討論の進め方について最終的なまとめを行った。さらに、ミニ特集の目次構成案に基づいて、7編の概要説明が担当責任者により行われ、その内容に関して詳細な議論を行った。

第15回調査研究会(2008年12月22日(月) 19:30-21:30)

各編の担当責任者より、提出された原稿の内容に関して、説明とそれに関する討論や修正の方向について議論を行った。1週間の修正期間の後、主査、副査、幹事で、全体の流れなどを調整することになり、年明けに全原稿を脱稿できる見通しとなった。

(b) 第2回横幹連合総合シンポジウムのオーガナイズドセッション企画実施

(平成20年12月5日、筑波大学大塚キャンパス)

- (1) 横断型人材育成推進調査研究会活動報告 佐野 昭氏 (慶應義塾大学)
- (2) 実践と教育: 函館の場合 中島 秀之氏 (はこだて未来大学)
- (3) 産学連携による実践的人材育成と将来的課題 中野 孝昭氏 (横浜国大)
- (4) 人材育成への産業界の取り組み 大久 修氏 (新日鉄ソリューション)
- (5) 地域・異業種との協力プロジェクトにおける横断型人材の活躍 藤倉 利之氏 (日産自動車)
- (6) オープンイノベーションを担う日本人の人材育成 永島 晃氏 (横河電機)

休憩 (15分)

- (7) パネル討論 司会 佐野 昭氏 (慶應義塾大学)

パネリストとして、上の講演者と富田公夫氏(日産自動車)を加えて討論を行った。論点として、大学側と企業側の人材育成に関する考え方のギャップはどこにあるのか、現在の OJT の限界は何か、新しい方向性があるとしたらそれは何か、横断型人材育成に関して産学連携にはどのような方向性や方法が考えられるか、インターンシップの今後のあり方、博士課程における人材育成

のあり方、横断型人材のコンピテンシーとその評価は、その他、長時間に渡って討論を行った。

(c) 企業および大学へのインタビューによる調査（平成20年度分）

平成20年4月以降に横断型・融合型人材育成に関するインタビューを行った企業は、情報通信分野、総合電機メーカー、電気メーカー中央研究所、外資系電気メーカー、外資系材料メーカー、総合電機メーカー本社、などがあり、平成19年度のインタビュー結果も含めて、13社のインタビュー結果を総合的に調査整理し、横幹ミニ特集や調査報告書に反映することにした。

(d) 横幹ミニ特集「横断型人材育成」Vol.3, No.1の企画および編集（平成21年4月発行予定）

本調査研究会の活動の成果を、横幹ミニ特集として下記のような構成にまとめた。

(1) 佐野 昭：ミニ特集「横断型人材育成」に寄せて

(2) 鈴木 久敏，坂井 佐千穂，旭岡 勝義：横断型・融合型人材はなぜ必要か？

(3) 遠藤 薫：文理横断と人材育成

(4) 川田 誠一，旭岡勝義：横断型人材育成における評価 — 教育プロセスの評価と育成した人材の評価 —

(5) 大学・大学院における横断型人材育成の現状と課題：本多 敏，古田 一雄，飯島 淳一，長田 洋，佐野 昭

(6) 企業における横断型人材育成の現状と課題：藤原 靖彦，旭岡 勝義，高津 春雄，坂井 佐千穂

囲み記事「第2回横幹連合シンポジウムにおける永島晃氏（株）横河電機）の講演から」

(7) 横断型人材育成の推進に向けて：佐野 昭，長田 洋，藤原 靖彦，本多 敏

(e) 横断型人材育成推進調査研究会報告書作成

本調査研究会の調査研究結果は、横幹ミニ特集の7編の内容に集約されているが、それ以外の資料も含め、別途調査報告書を作成する予定であり、現在そのとりまとめをおこなっている。

以上